

## WS の今季 4 年間における 5 つの主要優先事



### (1) 収益

ロレックスとのパートナーシップが延長されたことはセーリングにポテンシャルがあることを示している。継続して新規パートナー獲得を目指す（李会長の繋がりで中国に潜在パートナーあり）。

### (2) パラセーリングのパラリンピック競技への復帰

セーリングをよりインクルーシブなスポーツにするためには、ブリスベン 2032 でのパラセーリングのパラリンピック競技への復帰が最重要事項。

IPC 国際パラリンピック連盟の採用クライテリアに合致するには、クラシフィケーションやアンチドーピングの順守、全世界的な普及と大会の開催が必須。現状、パラリンピック競技でないことから財政支援が不足していて、各大会には苦しい時期となっているので、連盟やクラブからの協力支援を乞う。アジアでは去年シンガポール、今年インドで、アジア・インクルーシブ・シリーズが開催されている。パラセイラーの外洋レースへのアクセシビリティ向上についても議論された。

### (3) オリンピック・ビジョン・プロジェクト

[https://d7qh6ksdplczd.cloudfront.net/sailing/wp-content/uploads/2024/02/22003223/World\\_Sailing\\_Olympic\\_Vision.pdf](https://d7qh6ksdplczd.cloudfront.net/sailing/wp-content/uploads/2024/02/22003223/World_Sailing_Olympic_Vision.pdf)

WS の収入の 6 割は IOC からきているが、これを上げるには IOC 内のランキングを上げる必要がある。オリンピック・ビジョンにある通り、セーリングのオリンピック競技としての妥当性の強化、メディアプレゼンス向上の必要性を IOC から指摘されている。予定通りの進行ができるようなフォーマットへの移行、臨場感のある映像を

タイムリーに放送するためのテクノロジーへの投資が行われ、選手や競技のストーリーを語れるコメンテーターの必要性も謳われた。

#### (4) デジタル基盤強化

デジタル変革プロジェクトの一環としては、オンラインの **World Sailing Academy** がローンチされ全世界に展開されて、サブミッション方法がポータル化された。

#### (5) チームワーク

理事会や各委員会、コミュニケーション、選手との連携強化を図り、対外的メッセージを統一することで、IOC/IPC、メディア、スポンサーとの関係強化を図る。

### 外洋競技も WS の支援範囲に — **Navigating Offshore**

<https://d7qh6ksdplcdz.cloudfront.net/sailing/wp-content/uploads/2025/09/13091141/World-Sailing-Navigating-Offshore-Strategy.pdf>



総会で外洋競技も WS の支援範囲とする指針 **Navigating Offshore** が承認され、以下の内容が盛り込まれた。

- 安全を軸に、外洋特別規則を業界標準として維持・発展させるため、最新技術に対応できるようアップデートする。
- そのためにメーカー・特別イベントなど、幅広い関係者の意思決定参画を目指す。レース開催団体、各国連盟（MNA）、クラス、レーティング団体、主要イベント主催者と協働する。
- デジタルを使った認知度の向上、財政的均衡のための資金モデルの必要性

加えて短期アクションとして、O&O の委員長が、普及など他の委員会にも議席を持つことが総会で承認された。各部門でオフショア視点の意見が反映されやすくなる。

## 外洋ダブルハンド世界選手権 2025 / ブリスベン 2032 外洋種目採用について

<https://www.rorc.org/france-triumphs-at-2025-offshore-double-handed-world-championships->



9月末にイギリスのワイト島カウズで開催された外洋ダブルハンド世界選手権には、直前で南アフリカが辞退したため、21チーム 14か国 3大陸が参加。潮を読むことが鍵となるソレント海域で、順風から微風の中約 200 マイルを走破し、日本からはホライズンチームが健闘した。今年からリペチャージレース（敗者復活戦）が採用されたため、約 10 日間の長丁場になったが、レース前には Musto 店舗で女性セイラーのための交流会、期間中には公式クルーディナーや非公式のパブでの集まりがあり、選手達は親睦を深めたり情報交換をする時間にあてていた。大会が提供する Sun Fast 3000 というサプライボートを使用しての大会だが多くのチームは自国で同型艇を持っておらず、普段は似た大きさの艇で練習し、大会準備のため早めに現地入りして機器の確認をしたり、他国チームとオーバーナイトの練習をしていた。

評価としては、アンケート回答者の 100%が来年の大会への招待申請の意向を示したもの、サプライボート使用に伴う艇の平均化には課題と機会があり、将来大会の魅力発信とホスト誘致のため慎重な検討が必要。

日程などを議論する中で、イベントはオリンピックでの採用を目的とせず支援されるべきとの合意に至り、サプライボートを活用できる機会を拡大するためのサーキット化や、同一開催地で継続することより主催者のコスト削減をする可能性が示された。

2026 年の開催については日程・フォーマット・参加費を理事会で見直し中。参加費の 5000 ユーロへの増額予定については、高いという声があがっている。増額はレペシャージュレース追加に伴うもので、参加者には歓迎されたとしている。

Sun Fast 300D レースカレンダー：

<https://drive.google.com/file/d/1vtgQ9zJNtTrcACA0mITGfFBTIfzPTp-/view?usp=sharing>

2027 年以降の ODHWC については、事務局の手が回らず入札手続きが遅れている。

オフショアアドバイザーグループからは、現時点でのブリスベン 2032 での外洋種目採用への意欲は限定的で、IOC のセキュリティ要件を満たすことが難しいとの報告。参加規模と競技の特性を踏まえると、オリンピック採用ではなく、「Navigating Offshore」にある戦略を進め、ワールドセーリングを外洋コミュニティにとって意味のある存在にすることを焦点とすべき、との結論に至り、そのための追加リソースの必要性も言及された。

## SRSC サブミッションのタイミング変更

外洋特別規則小委員会へのサブミッションのタイミングが変更となり、ミーティングの開催は 1 年に 1 回でなく 3~4 回、サブミッションの提出はミーティングの 6 週間前までとなつた。よって年次会議での協議結果は翌日の O&O には上告されない。

外洋特別規則は、安全確保と、コストが上がりすぎてセーリングの普及の妨げにならないこととのバランスをとることが重要で、各委員には表決の前に関係者から広く意見を得て投票をすることを期待すると同時に、委員会外との関係構築の機会と捉えること。

プロポーザルの提出はこちらから：

<https://www.sailing.org/inside-world-sailing/organisation/governance/proposals-portal/submit-a-proposal/>

## レーティングシステム

毎年恒例が、ORC と IRC が、現行システムの課題について議論し、セイラーや大会をどう支援すべきかが検討され、差異を説明する文書作成の有益性、参加障壁を下げる UMS の継続的改善の重要性について合意された。

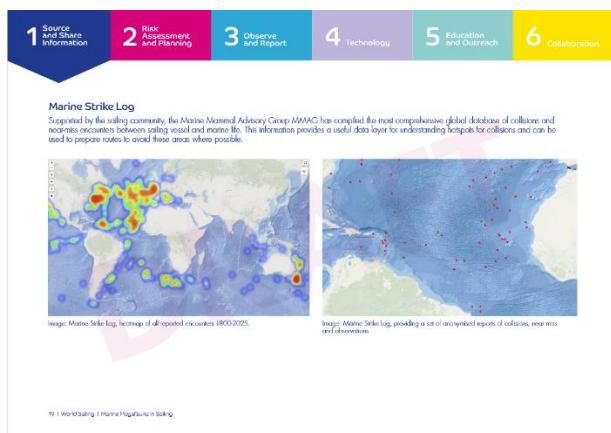
## サステナビリティ

<https://www.sailing.org/inside-world-sailing/sustainability/nature/>

World Sailing の持続可能性目標である サステナビリティ・アジェンダ 2030 の進捗、成果物や評価ツールなどが共有された（ウェブサイトからダウンロード可）。

## メガファウナ（海洋大型生物）ガイダンス

[https://d7qh6ksdplczd.cloudfront.net/sailing/wp-content/uploads/2025/10/20150549/SC\\_2025AC-Item-3-b-Marine-MegaFauna-in-Sailing-Guidancev4.pdf](https://d7qh6ksdplczd.cloudfront.net/sailing/wp-content/uploads/2025/10/20150549/SC_2025AC-Item-3-b-Marine-MegaFauna-in-Sailing-Guidancev4.pdf)



セーリング界を「海の保全を担う当事者」と位置づけ、メガファウナ（海洋大型生物）ガイダンスを作成中。航海ルートや大会運営の計画段階から、大型海洋生物と生態系に考慮して自然保全行動計画を作り、衝突低減策を組み込むこと、衝突・ニアミス・目撃情報を体系的に報告して海洋科学界との協働を進めることで、競技の安全と海洋生態系の保護を同時に推進する。

## 国際規則委員会

IMO、ISO などの動向を監視してセーリング界の国際規制への対応を支援するもので、直近で重大な懸念事項はないが、最近の国際環境会議でネットゼロへの合意に至らないことが与えるサステナビリティアジェンダへの影響をモニタリングしていく。

## プロポーザル投票結果

SRSC での投票結果は以下の通り：

- i. OOC-2025-011 – OSR 4.02 取り下げ
- ii. OOC-2025-015 – OSR 4.21 取り下げ
- iii. OOC-2025-016 – OSR 5.02 否決
- iv. OOC-2025-017 – OSR 3.03 承認
- v. OOC-2025-018 – OSR 3.02 & Appendix L 承認
- vi. OOC-2025-019 – Appendix M 修正の上承認
- vii. OOC-2025-020 – Appendix C 承認
- viii. OOC-2025-021 – Appendix B 承認
- ix. OOC-2025-022 – OSR 5.01 承認

O&O での投票結果は以下の通り：

- i. OOC-2025-009 – S&R への可視性 却下し SRSC のフィードバックを求める
- ii. OOC-2025-010 – OSR 4.19.3 – EPIRB 承認
- iii. OOC-2025-012 – OSR 4.27.4 – ストームジブのバテン 承認
- iv. OOC-2025-013 – OSR 4.27 – ストーム & ヘビーウェザーセールの仕様 承認